

しずおか 県民児協だより

30

第30号
平成27年9月1日発行

【題字：静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書】

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ☎054-254-5224 ☎054-251-7508

伊東市民生委員児童委員協議会の活動 「絆でつなぐ笑顔あふれる健康なまち」

伊東市の人口72,013人に対し、高齢化率は県下市部第2位の37・9%です。高齢者のみ世帯は、平成26年4月現在、11,089世帯で、全世帯の31・8%、そのうち高齢者のひとり暮らしは5,827世帯で、毎年300世帯ほど増加しております。

そのようななかで、私達、民生委員児童委員協議会の6地区160人の委員は、伊東市地域福祉計画に掲げる「絆(きずな)でつながる、やさしさと笑顔にあふれる健康なまち」の基本理念のもと、住民の立場に立ちながら、地域における見守り・安否確認、生活のこと、こども・障害のある人・高齢者のことなど幅広い相談を受け、必要に応じて関係機関と連絡を



取るなどの活動を行っております。

災害時要援護者避難支援計画については、当市は、東海・東南海地震・相模トラフ地震に加え、数年おきに群発地震の発生する伊豆東部火山群の想定火口域が、市街地を含む前面海域に指定されており、様々な災害に備えなければなりません。平成24年に支援計画個別台帳を整備し、以後、毎年新規対象者への面接、移動や変更事項の確認を行っております。

毎年秋に実施される、社会福祉協議会と実行委員会が主催する「ふれあい広場」では、全委員から家庭で眠っているお宝を提供して頂き、バザーを開催しており、男性委員は売り場づくりと販売を、女性委員は、品物の値付けと参加する施設や団体の皆さんのお弁当作り(500食)を早朝から担当し、バザーの売り上げは善意銀行へ寄附しております。

その他、ひとり暮らし高齢者お楽しみ会、高齢者・障害者・小中学校運動会、市や地区の行事・イベント等に、出来るだけ多く参加し交流を図っております。



平成27年度静岡県民生委員

児童委員協議会総会あいさつ

会長 越川 年

日時 平成27年6月1日

場所 グランシップ会議ホール「風」

今日から六月に入りました。初夏の候と申し上げたいところですが、外は夏の陽気になっています。ここ二、三日、日本列島は口永良部島の噴火、小笠原沖を震源とする巨大地震が相次ぎ、穏やかならざる状況です。箱根の大涌谷の様子も心配されます。災害時への心構えの必要性を改めて感じているところがあります。

そんな中ですが、毎日お元気にご活躍のことと存じます。本日は静岡県民生委員児童委員協議会総会にお集まりいただき、有難うございました。皆さまには単位民児協の会長のお立場で、ご活動頂いているわけですが、日頃のご労苦に対しまして心よ

り敬意を表すると共に、厚く感謝を申し上げます。

また、副知事大須賀淑郎様、静岡県社会福祉協議会会長神原啓文様、静岡県共同募金会会長櫻井透様をはじめ、ご来賓の皆さまには公務ご多忙の中、本総会にご臨席賜り、誠に有難うございました。日頃より本会に対しまして、温かいご支援・ご協力をいただいていることにつきまして、高い席から恐縮に存じますが、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、本年四月、「生活困窮者自立支援法」が施行されました。この制度創設の背景には、社会的孤立の拡大、貧困の連鎖等がございます。ご承知の通り、

生活保護受給者数は過去最大になっています。生活困窮者への自立支援活動は私たち民生委員が歴史的に担ってきた役割のひとつであります。再来年は民生委員制度創設百周年を迎えるわけですが、百年前に始まった「済世顧問制度」や「方面委員制度」も、その目

つて、この制度につきましては、従来から取り組んできた社会的孤立状態にある人への支援体制が整備されたと捉え、積極的に関わっていただきたいと考えています。

次に、先ほども触れました制度創設百周年についてですが、



来賓として挨拶する大須賀副知事



冒頭に挨拶する越川県民児協会長

全民児連では平成二十九年五月十二日を目的に全国的な記念行事を考えているところです。本県におきましても再来年に向けて、本会と静岡市、浜松市の三民児協が合同で、百周年記念事業企画推進委員会を立ち上げ、動き始めているところです。詳細はこれからの当委員会の議論を待つこととなりますが、今のところ、記念大会の開催、記念誌の発行等を考えているところです。

三点目は、昨年この総会で申しあげましたが、昨年四月に厚生労働省から出されました、「民生委員・児童委員の活動環境の整備に関する検討会」報告書について再度、お話ししたいと思います。報告書には私たちの活動について行政の更なる支援や情報提供、さらに委員の負担軽減などの必要性について述べられているところですが、このことについて、来月八日、市町行政の担当課長、事務局担当者にお集まりいただき、県民児協として改めて要請をする予定です。

であります。来年秋には早くも一斉改選の時期を迎えます。民生委員のなり手不足に対応するためにも、現委員に引き続き頑張っていたくためにも、私たちの活動へのサポート体制の充実には肝要であります。このことの必要性について行政の理解をより広めていくことは大変重要なことと認識しているところです。本会としても努力をしてまいります。各市民児協においても市町行政や事務局への働きかけをしていただくようよろしくお願いします。

皆さま方には、本年も「広げよう地域に根ざした思いやり」のスローガンのもと市町民児協や単位民児協において力強いリーダーシップを発揮していただくようよろしくお願い申し上げます。

それでは、皆さまお一人お一人の今後のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、私の開会の挨拶とさせていただきます。有難うございました。

平成 25 ～ 26 年度

研究地区民生委員児童委員協議会 活動報告

民生委員児童委員活動の振興を目的とした助成事業で、平成 25 ～ 26 年度に指定された、西伊豆町民児協・牧之原市榛原地区民児協の 2 民児協の活動報告です。

●西伊豆町

民生委員児童委員協議会

平成 25 ～ 26 年度研究地区活動報告の発表を終えて

西宮 恂夫

ことの発端は賀茂民生協議会役員研修会後のことでした。県民生委員児童委員協議会の天野前会長より西伊豆町民生児童委員協議会では非平成 25 ～ 26 年度の研究地区活動を行って欲しいとの依頼がありました。

どのような研究を行うか問題点も沢山あり、悩んでいました。



そんな折、平成 25 年 7 月 18 日未明から西伊豆町では非常に激しい降雨により田子・安良里・宇久須各地区の居住区域を含めた広範囲で浸水や土砂流出による甚大な被害が発生しました。特に私の住んでいる安良里地区において浜川が氾濫し安良里地区全体が浸水したようにも思えたが、床上浸水 63 件、床下浸水 102 件の被害発生でした。当時私は

自治会長として地域の代表を務めており、重い責任を感じていました。もう一度当時を思い起こすと、地区内での住民意識があまりにも自分勝手で感情が高まり豹変するさまに本当に驚きました。特に災害対策本部の立ち上げには時間が掛かり、一人暮らしの高齢者への対策が後手に回ってしまいました。住民からの見回り要請があつて初めて安否確認を行うといった状況でした。

改めて認識したことは、民生委員の貴重な情報源である福祉票の再点検を行うことが大切ではないかと思い、福祉票の統一した書き方の講習会を開くことにしました。平成 26 年 9 月泉恵造研修企画工房の泉恵造先生をお招きして福祉票の書き方について勉強会を行いました。先生の丁寧な講義及び作成するための留意点などいただきました。講習会を受講して災害時における民生委員児童委員の位置



づけ、福祉票の意味の重要さを把握できたことにより、生活援護者へのアプローチ、見守りの強化、災害時の活動体制の意識についても学ぶことができました。講習会で学んだことを今後の西伊豆町民生委員児童委員協議会で活用できるよう委員同士で情報交換を密にし、体制強化を図っていききたいと思います。又、平成 28 年 12 月民生委員一斉改選もありますが、福祉票の確実な引継ぎを行っていかねばならないと強く感じました。

●牧之原市榛原地区

民生委員児童委員協議会

1 はじめに

私たち民生委員児童委員は、各々の担当地区における個別の相談、支援活動を行い、地道に要支援者に寄り添い、関係機関への取次ぎ、仲介や見守りなどの活動を行っているところではありますが、ややもすれば民生委員児童委員自身が誰かに助けを求める事態も発生しかねません。

そこで、当地区民児協では、個々の民生委員児童委員活動の支援体制を確立する必要性から活動方針を立てました。

2 民児協活動の三本の柱と

基盤強化

- ① 現場を知る
- ② 私たち、私を知ってもらう
- ③ 仲間づくり

この三本の柱の実現に向け、研修、交流会、講演会等への積

極的な参加と民児協内での水平展開、支部会内の連携強化、行政や社協などの関係機関とのネットワークづくりや、個人情報 の守秘義務の遵守による信頼の確保等、民児協活動の基盤強化を図ることとしました。

3 その取組みのポイントと

事例紹介

- ①『定例会』 テーマ研修（個人情報、障害福祉サービス、防災、ケアマネ意見交換、個別相談）



ケアマネとの交流会



「ふれあい広場」イベントへの協力

- ②『ふれあい』 市内の福祉施設や総合病院等でのボランティア、ふれあい広場イベントへの協力、同イベント内での民児協PRチラシの配布による市民とのふれあい。

③『仲間づくり』 中高生との「身近な福祉について語ろう」では、若者との交流による世代を超えた福祉観の共有や、「地域まちづくり活動」への支援参加による、地域内単位での要援護者支援の仲間づくり。

- ④『事務局』 福祉施設や行政



「身近な福祉について語ろう」による交流

機関との連携や、効率的な事務処理等による円滑な民児協の運営と民生委員児童委員への支援体制づくり。

4 二年間の活動を振り返って

各委員一人ひとりが自覚と自信を持った活動は、「民児協の仲間」「関係支援機関」「地域の人達」との連携を築く信頼の輪が広がってきており、今後は更に時代に合った社会環境に照らし、活動の推進を図っていきたいと思います。

ひろば

日頃の活動について



富士市
民生委員児童委員協議会

木村 久人

富士市伝法の民生児童委員は、18名です。地区民児協の会合が月に1回あります。その会合では、杜協・市より活動の依頼を受けたら、日頃の活動を和気藹々と話し合ったりしています。

また、7月1日からは、市から依頼された高齢者実態調査を行っています。高齢者のお宅を1軒1軒回って、困ったことがないか、又病院関係・緊急連絡先・日常生活の様子などを聞き、資料作成をしています。この資料は、高齢者介護支援課が福祉・介護サービスの利用につなげたり、緊急時の親族等への連絡に活用できるようにしています。高齢者に直接面談し、困ったことなどがないかをお聞きし、ご本人たちの基礎的データを集め、いざというときに備える大切な仕事だと思っています。

また、小・中学校とは年2回の懇親会があります。担任の先生と、主に母子家庭等の児童・生徒の様子等の情報交換をしています。未来を担う子供たちに寄り添いながら、また、高齢者を見守りながら、今後も活動を進めていきたいと考えています。

子供たちは松崎の宝



松崎町
民生委員児童委員協議会

齋藤 チヅル

松崎町は現在、人口7,200人余りの静岡県で一番小さな町です。35の地区からなり、主任児童委員2名で見守りをしています。人口の減少に伴い子供たちも少なくなり、小学校が4校から1校、幼稚園も4園から2園に統合されました。

最近では、母子・父子家庭が多くなり、特に母子家庭では、経済的にも大変な中で子育てをしています。又、両親が揃っていない共稼ぎの家庭が増え、子供に手をかけてあげる余裕がないように見受けられます。朝食を食べないで登校したり、服装や身の周りのものが清潔でなかったりと、親の余裕のない子育て、それが子供たちに何らかの形で表れていると思います。

虐待やネグレクトのサインが子供から発せられるのを見逃さないようにアンテナを高くして、地域の人や各地区の民生委員と密に繋がりをもち、子供のサインにはすぐに行動できるような気を付けています。又、学校の参観日や行事等にも出席し、子供や親の様子を見る機会を多く作るようにしています。

「松崎の宝」である子供たちが、まっすぐに育ってくれるよう見守っていききたいと思っています。

「地域の関わりの中で」



川根本町
民生委員児童委員協議会

小川 正雄

現在、川根本町では民生委員33名と主任児童委員3名で活動を行っています。私は80歳帯を受け持っていますが、高齢化率が45%と高い川根本町では、活動対象はほとんどが高齢者です。一人暮らしの高齢者や、老夫婦のみで暮らしている世帯が年々増えてきている中で、さまざまな課題に直面します。そんなときには、町福祉課やケアマネジャーなどと連携して対応しますが、夜間に体調を崩して救急車で搬送される際に、健康保険証や薬、ときには財布の入ったバッグを自分の判断で探して持つて行くことも少なくありません。

近年、親族間の関係が希薄になっているため、場合によってはプライバシーを超えて関わらざるをえない場合もあります。そこまで踏み込んで良かったのか、あるいは踏み込まない方が良かったのかなど、振り返ることもたびたびです。しかし私が現在関わっている方々は、私が子どもの頃からお世話になってきた方々です。それゆえ、民生委員としてもそうした関係の延長線上で関わっていききたいと思っています。6年以上地域の子どもたちと行っているラジオ体操や通学路での声掛け運動など、ふれあいの中で自らの心のパワーアップをしていききたいと思っています。

ひろば

副会長として



島田市
民生委員児童委員協議会

横田 一女

「随分、訪問件数が多いな、何か困難なケースにぶつかっているのかな。」

毎月提出される活動記録票を集計し、委員の顔を思い浮かべながら電話をかける。声を聞いて安堵したり、反対に相談を持ちかけられることもある。毎月、同じことを繰り返して地区民児協副会長として一年半が経つ。

困難な事例は地区定例会で話し合い、委員が一人で課題を抱え込むことがないように、また、新任委員とは顔の見える関係を築きながらサポートしていく体制づくりの重要性を痛感している。

翌月の定例会に向けて月末には会長、副会長2名、会計担当の4名が集まり幹事会を開き、事前準備、おおよその打ち合わせを行っている。

定例会を研修の機会と捉え、事例検討の場を増やし、そこから各委員が課題を共有し、今後の取組みを考えていくことが大切ではないだろうか。

私自身も前向きに学び、視野を広くもって会長、地区民児協活動を今後も支えていきたいと思っている。

事例発表と勉強会



磐田市
民生委員児童委員協議会

大石 成志

磐田市竜洋地区民児協は、民生委員児童委員34名、主任児童委員2名、合計36名で組織されています。

定例会では、事例発表と勉強会も行っています。事例発表は各委員が担当地区の概要、経験した相談・支援事例等を発表します。これらはそれぞれの委員にとって身近で一緒に考える課題が多く大変参考になっていて知識の習得・対応能力の向上になっています。3名/月発表しますので、必ず1回/年に順番が回ってきます。発表はプレゼンテーション能力の開発につながっています。更に質疑応答で定例会も活発化しています。先月はこんな発表がありました。「身寄りのない一人暮らしの方が病院へ救急搬送され、緊急手術をするので『同意書に署名をしてください』とのこと。切羽詰まっていたので言われるままに署名をした。これで良かったのか？」

次に勉強会についてです。私達には各人に「社会福祉小六法」が渡されています。私達は民生委員法等に述べられている任務・職務を理解のうえ活動をしなければならぬからです。課題は会長が頭をひねって考えたものや委員からの質問から出ます。2〜3問/回です。ポイントは、その回答をどの条文を解釈して出したのか、また過去のどの条文解釈を引用したのかを作文して説明します。民生委員法「必携」児童委員活動の手引き、過去の配布資料等を参考にします。これは民生委員としての知識の習得になっていると自負しています。過去問から一つ。「民生委員は赤い羽根や歳末たすけあい等の募金活動にも参加しなければならないのですか？」

私達はこれのようにして培った知識をベースに、情熱を持って地域の福祉活動・児童の見守りに取り組んでいます。

地域に寄りそって



湖西市
民生委員児童委員協議会

伊藤 泰子

湖西市は静岡県の最西端、浜名湖の西に面し、南は遠州灘、北、西は湖西連峰の山々に接した風光明媚な地です。東部には江戸時代に築かれた新居関所、新居宿の古い街並みがあります。

自動車、電器関連の工業が盛んであり、「世界のトヨタ」の始祖、豊田佐吉の出身地でもあり、トヨタ関連、スズキ自動車等の工場が多くあります。工場には、ブラジルをはじめとする南米、アジアの国々からの従業員も多数労働しており、学校によつては全校児童、生徒の1割が外国籍の子供が占め、国際色豊かでもあります。

湖西市民協は東部、南部、北部の三単位民協ですが、毎月の定例会は合同で103人の大所帯での定例会を開いています。行政から、民児協からの伝達事項は、まちがいなく一斉に伝わります。

湖西市も高齢人口が増加の傾向にあり、高齢者世帯、独居の老人が毎年増加しています。

私の担当地区でも、市街地区画整理事業が終了し、街の様子も変化しつつあります。戸建ての住居、併用住宅がほとんどを占めています。賃貸・分譲マンションに高齢の方も入居されるようになりました。

十数年、民生委員をしていますので、住民の方の周知、関係づくりも、年の経過と共に徐々に滑らかに運ぶようになりました。

親族が近くに住んでいない一人暮らしの方が介護が必要になり、介護保険申請↓居宅介護支援↓病院、施設入所となり、あの世に何人か送りしました。後から親族の方に感謝のことを頂いた時、「自分が係ることができて良かった。」と思う瞬間です。

日常の問題が起きた時、相談して頂ける地域住民の身近な存在でいたいと思います。

平成 27 年度 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会発表要旨

「民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備に向けた取り組み」 委員のための民児協活動や行政機関等との連携

静岡県民生委員児童委員協議会 常任理事 渡邊 善司



以上3項目の課題が示された。今後は、他の市町の情報支援の中で、問題解決に取り組んでいきたい。

○三島市民児協の実践報告

私の実践報告は、時間とページの都合により、細かな事を多く報告してもと思い、サブタイトルの民児協活動、行政機関等との連携についての2点を紹介します。

①「市民すこやかふれあいまつり」

この取組は、「市民が相互の思いやりを基調として連携の輪を広げ、心のふれあいによる健康で明るい福祉のまちづくりを推進する事を目的に実施されており、福祉施設や社会福祉関係団体等、多くの協力のもと、模擬店等の出店がなされ大変賑わっている。三島市民児協も、保護司や更生保護女性会とともに

「ふれあいバザー」を出店しており、行政機関だけでなく、多くの関係団体と交流を持つきっかけとなっている。

②「避難行動要支援者の支援体制づくり」

名簿づくりにあたっては、避難支援を必要とする要支援者の実態調査のため、民生委員が戸別訪問を実施し、日々の見守り活動と併せて、詳細を把握すべく協力を実施している。名簿は、自治会・民生委員に配布され、より避難支援を円滑に行うための「個別支援計画」の作成に繋がっている。

○行政機関との連携

紹介したような取組を通じ、連携を密に行うなかで、負担軽減や民生委員活動が円滑に実施できるよう図っている。地区や部会などに市の職員を講師として招き、様々な取組に触れ、民生委員としての識見の向上にも努めている。9月、3月の年2回開催の民児協全体研修会において、民生委員相互間の連携強化や情報支援を行うことにより、委員の意見や悩みを共有すること、活動にあたっての大きな力となっている。

編集後記

年を重ねると「一日は長く、一年は短く」感じるといいますが、ついこの前に新任研修会が実施されていたかと思えば、もう民生委員の一斉改選に向けた話し合いが始まりました。

ある学者が「同時が同時でない。」「絶対的な時間はどこにもない。すべての人（物）はその時間に従って生きていく。」「時間がゆっくり進むとゆっくり年をとる。」と言っています。

最近の医学は、延命治療をはじめ様々な病気に対してコントロールできるようになりましたが、不老不死は現在の科学の力では及びませんが、実現したら人類は滅亡に向かっていくともいわれています。

いずれにしても、健康長寿の3要素は、「運動」「食生活」「社会参加」、最近に加えて「人に感謝される役職を3つ以上引き受けること」と言われております。「ふじのくに型・人生区分」が発表されました。私たち民生委員はみんな壮年です。コグニサイズを取り入れ健康に気を付けて頑張りましょう。

(松)